

② 北九州市の財政状況

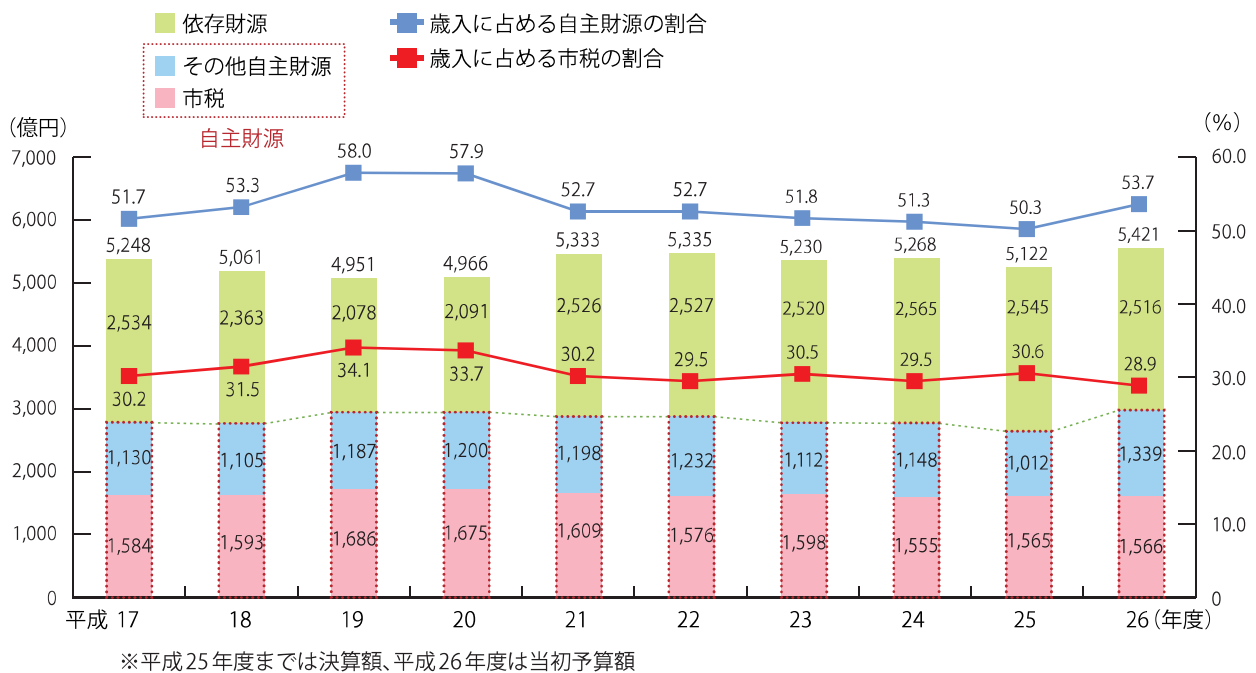
(1) 歳入の状況

歳入は、市税や使用料、手数料など地方自治体が国や県に依存しないで自主的に収入することができる「自主財源」と、地方交付税^{※1}、国庫支出金、市債など自主的に収入できない「依存財源」に分類されます。自主財源である市税などが多いほど、自主的な財政運営ができます。

本市の場合、市税(自主財源)は、市民一人当たりの収入額が少なく、歳入に占める割合も低くなっています。一方で地方交付税(依存財源)は、市民一人当たりの収入額が多く、歳入に占める割合が高いなど、他都市に比べて財政の基礎体力が弱いと言えます。

【一般会計^{※2}歳入の推移】～脆弱な財政基盤～

一般会計歳入に占める自主財源の割合は50%程度、市税の割合も30%程度で推移しています。



【市民一人当たりの市税収入と歳入に占める市税の割合(普通会計^{※3}決算/平成24年度)】 ～歳入に占める市税の割合は政令市中下から2番目～

市民一人当たりの市税収入は15万8千円で政令市中少ない方から8番目です。

歳入に占める市税割合は29.3%で政令市中低い方から2番目です。

